

令和5年第11回加西市教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|---------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和5年11月22日(水) | 14時00分 |
| 2 | 閉会日時 | 同日 | 14時54分 |
| 3 | 開催場所 | 市役所1階 多目的ホール | |
| 4 | 出席者 | 教 育 長 | 菅 野 恭 介 |
| | | 委 員 | 沼 澤 郁 美 |
| | | 委 員 | 楠 田 初 美 |
| | | 委 員 | 中 川 和 之 |
| | | 委 員 | 深 田 英 世 |

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
市参事(学校再編担当)	伊 藤 勝
学校教育課長	小 坂 卓 司
教育総務課長	中 井 孝 浩
こども未来課長	阿 木 博 信
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき
教育総務課(学校再編推進員)	吉 村 靖

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移ります。

6 付議事項

議案第36号 令和6年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について

議案第37号 令和6年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 36 号 令和 6 年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について

(学校教育課長からの説明) 加西市立加西特別支援学校学則第 8 条第 2 項の規定により、令和 6 年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について、別紙のとおり定めたいので、委員会の議決を求めます。まず初めに、今年度新たに追加した項目についてご説明します。番号で言いますと、425 から 430 番までの追試験の項目を追加しました。特に近年の状況を鑑み新型コロナウイルスやインフルエンザなどに対応するため、県立特別支援学校の入試要綱等を参照しながら作成しました。この部分以外の大きな変更点は、今年度はありません。今年度の加西特別支援学校高等部の入学者選考につきましては、この要綱に記載しておりますとおり、基本方針や本科における志願者取扱実施要領並びに本科における入学者選考実施要領に基づいて実施をしたいと考えております。

冊子 6 ページには別紙 1 として今年度の日程をまとめております。選考方法につきましては、入学願書から始まります書類と面接、適性検査等によって行うことにしております。また、定員割れがあった場合には、例年どおり再募集を行うこととしております。その後に様式第 1 号の入学願書、入学願副申書、調査書など各資料を綴じ込んでいます。なお、本委員会の資料提出後に修正箇所が出ましたのでご説明させていただきます。様式第 3 号 1 の調査書、様式第 3 号 2 調査書裏面、様式第 5 号受検票においてそれぞれ「氏名」を「志願者名」に訂正します。ご審議のほどよろしく申し上げます。

教育委員からの意見と学校教育課長の回答

- ・質問ではないのですが、先ほどご説明いただいたように、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの動きが一応続いているということで、体調の関係で適性検査が受けられなかった志願者へ救済措置として追検査の要綱をつけられたのは、とてもいいことだと思います。賛成いたします。

議案第 37 号 令和 6 年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について

(学校教育課長からの説明) 教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則第 2 条第 5 号の規定により、令和 6 年度の加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について、別紙のとおり定めたいので、委員会の議決を求めます。

兵庫県教育委員会から令和5年10月27日付文書により、令和6年度の兵庫県教育委員会公立学校教職員異動方針が出されました。その内容につきましては一部文言の置き換えが数カ所あるだけで、昨年度までと大きく変更はありませんでした。このことを確認し、本市における令和6年度異動方針を作成しました。基本方針としましては、加西市の実情に即した公正かつ適切な人事異動を行うことによって、学校運営の充実を図るとともに本市学校教育の一層の発展を期することとしております。

内容について説明いたします。異動につきましては原則として現任3年以上在籍した者とし、休職中、療養中、産前産後休暇中、育児休業中、派遣中の者の異動は行いません。また、市外への転出につきましては、交流希望やその他の一身上の都合により転出を希望する者を対象としています。

次に、配置換では、同一校勤務9年以上（事務職員と栄養教諭については5年以上）の者は原則として異動を行います。また、3年以上9年未満（事務職員と栄養教諭は3年以上5年未満）の者も必要に応じて異動を行います。また、幅広い視野を持つ教職員を育成するために、初任者を含めた全ての教職員について、異校種など特色の異なる学校への異動につきましても、本人の希望に十分配慮しながら進めたいと考えております。

また、今年度から定年延長制度が始まります。このことに伴い再任用の部分を修正いたしました。これまでは「定年退職者の再任用に当たっては退職時の在籍校を原則とする」という内容がありましたが、今年度の定年退職者はありませんので、その部分を削除し、代わりに今年度からスタートする定年前再任用短時間勤務に関する内容を記載しました。定年前再任用短時間勤務とは、今年度末で言えば60歳に到達している教職員は、61歳になる令和6年度末に定年退職となるわけですが、令和6年度の勤務はフルタイムではなく短時間勤務を希望する場合の勤務形態を指しています。フルタイムでないことから、他の短時間勤務者との組合せで常勤1人とみなされる仕組みになっておりますので、配置校が退職時の在籍校と限定することができません。よってここにありますとおり適所に配置するといったしました。なお、過年度の勸奨退職者や定年退職者、つまり再任用2年目以降については従来から適所に配置することとしていましたので、この部分の方針については、これまでどおりで内容に変更はありません。

以上、本教育委員会で議決いただければ、教職員の異動に向けて準備を進める予定です。よろしく申し上げます。

教育委員からの意見

- ・たしか昨年度も異動方針において、今後の学校再編等の関係で教職員等の定員の減少等も考えられるので、よくご配慮のほうをしていただきたいという教育委員から

のご意見があったかと思えます。今から学校再編等によっていろいろな意味で変わってきますので、今年度もそこはご配慮をお願いいたします。さらに、去年と同じことですが、定年引上げで継続雇用の面でもその分だけ退職者が増えてくることとなりますので、その辺も配慮しながら職員の皆様の配置等をご検討いただきますようお願い申し上げます。

9 議決事項

議案第 36 号 令和 6 年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について

原案どおり可決

議案第 37 号 令和 6 年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

別紙「令和 5 年第 11 回定例教育委員会教育長報告」において概要を項目でまとめていますのでご覧ください。その中の一部の内容について説明させていただきます。

10 月 26 日に近畿都市教育長研究協議会が、あべのハルカスの隣の都シティ大阪天王寺寺でありました。このとき大阪教育大学副学長の藤井睦子先生が講演をされたのですが、実はこの方は、大阪府コロナ対策の責任者として、よく吉村知事と一緒にテレビに映られていた方で、大阪のコロナ対策を全て取り仕切った方です。「くじけない力を育む」ということでコロナ禍における取組を中心にして講演されました。迅速な意思決定や柔軟な対応ができる組織をどのように作っていったかというお話でした。特に大阪ではまず情報の見える化をされていました。感染状況がこれだけなら通天閣を青くするとか、そういうふうな情報が見える化することから始めて、できるだけ府民を不安に思わせないような対応をされたということです。

いわゆる PDCA というものの考え方では、なかなか物事をスピーディーに展開できないということで、今よく言われる OODA という Observe の観察、Orient の状況判断、その後すぐに Decide で意思決定をして、Act で行動するというような意思決定をされたそうです。そういう非常に危機的な状況の中での組織的な対応ということで、とても参考になりました。

その後、京都府八幡市、大阪府池田市、奈良県桜井市という三つの市から実践発表

が行われ、学力向上、小中一貫、地域資源を生かした教育ということで発表されました。こちらも、非常に参考になる協議会でした。

次に、10月29日には善防公民館まつりが行われました。善防中学校の生徒たちが出演したり、ボランティアで協力したりと一緒に祭りを盛り上げてくれました。子どもたちが一緒にやってくれている姿というのは非常によかったです。公民館と登録グループの方も、一緒になって楽しく運営されていたのが印象的でした。

同じ日にあびき湿原10周年の催しがありました。南網引にあるあびき湿原における取組が10周年目ということで、責任者である山下さんの声かけで行われ、たくさんの方が出席されました。今このあびき湿原にはいろいろな人が来て学んでいます。市内小・中学校はもちろんのこと、北条高校や小野高校などからも探究活動として頻繁に訪れて活動をされているそうです。

11月2日からタウンミーティングを始めています。そこでは市全体の課題と、教育委員会から学校再編についてのアンケート結果の説明等を行っています。11月21日には泉小学校区が終わり、あとは11月28日に宇仁校区で行われることになっています。これについてはまた後で説明をさせていただきます。

11月3日から19日まで加西市文化祭が行われました。それに合わせて音楽祭、家族ふれあい芸能祭、生け花展などいろいろな催しが行われています。11月19日にはふるさと伝統文化のつどいが開催されましたし、明日もスポーツ少年団のつどいが行われます。さらに、伝統芸能フェスティバル、古法華50周年、STEAMフェスなど、10月終わりから11月にかけてたくさん催しが行われます。まさに加西市における「人生100年時代」を見据えた生涯学習が、花開いているというふうに感じるところです。皆さんの熱心さに頭が下がる思いです。

11月8日に社会教育委員会が開かれ、社会教育推進委員会や公民館活動等、今後の活動について、建設的な議論ができました。また今後それを生かしていきたいと思えます。

11月11日には北部公民館まつりが行われました。今回は泉中学校の生徒が、吹奏楽の演奏や合唱などをしてくれたり、ボランティアで協力してくれたりと一緒に祭りを盛り上げてくれました。登録グループの方も非常に熱心に活動いただいていたので、すごく良いお祭りになったと思いました。

同日には北条高校100周年の催しがあり、オリンピック金メダリストの内村航平さんが講演をされました。印象に残ったのは物事を成し遂げるために何が必要かということで四つほど挙げられた中で、「圧倒的努力」と言われたことです。「努力」って何か非常にシンプルな言葉だと思うのですが、それに「圧倒的」という言葉がつくのです。物事を成し遂げるために努力するのは当たり前ということなのですが、何かを本当に成し遂げたいのなら、それを圧倒的にやらないといけないということです。当然、圧倒的というのはその人によっていろいろなのですが、非常に印象に残りました。

教育委員会としては、地域の高校である北条高校にできるだけ協力をしていきたいと思っております。

11月14日には播磨東地区教育委員会連合会理事会、研修会が行われました。講話は学校における児童生徒の自殺予防ということで非常に重いテーマでした。講師は関西外国語大学の新井肇先生です。前職は兵教大の教授で生徒指導の専門家です。少しだけお話しすると、日本人というのは世界の中でもあまり宗教的なバックボーンがなく、自殺をする人が非常に多い傾向があるそうです。学校で考えた場合、例えばいじめによって自殺する子がいるとよく言われますが、実はいじめによって自殺する子というのは全体の3%に至るかどうかだそうです。学校現場で自殺に至った子というのは、本当はそれ以外の理由が圧倒的に多いということです。

だから、自殺を考える子どもたちのサインに気づくことが何よりも大切だということです。そのサインにはいろいろなものがあり、ここで全ては言えませんが、例えば自傷行為も大きなサインのひとつです。また、ふだんの行動も大事です。でも、何よりも学校ができることは、子どもが困ったときに相談できる体制や雰囲気づくりです。この後で生徒指導についての連絡もありますが、加西市の場合は今できる限り細かい小さなことでも報告するように指導しており、数が増えても構わないという姿勢で取り組んでいます。そういうことがとても大事なことだと思います。おかしいと思ったら、とにかく空振りしてもいいから対応しましょうとおっしゃっていました。本当に良い研修だったと思っています。

11月15日には、泉中学校の道徳の研究会に行ってきました。元関学の教授で文科省教科調査官の横山先生が指導助言をされました。なかなか厳しい指導助言でした。でも、本当に心に響きました。道徳というのは、何か正しいことを学ぶのではなく、自分をつくっていくことなのだそうです。だから、道徳の授業は読み取りではなく、子どもの心がどう動いたかとか、子どもがここでどう考えたかとか、そういうところをもっと見てほしいという非常に深いお話でした。これも非常にいい勉強になりました。

11月16日にはアスリートファーマーズ加西というグループの方が、各こども園にお米を寄附していただけるということで、その出発式がありました。今日行った加西こども園にお米が置いてありました。寄附していただいて本当にありがたいことだと思います。

この時期はまだまだこれからいろいろな催しがありますが、全て一生懸命やっておられる方の努力の賜物だと思いつつ、私たちもそれを支えていかなければならないと思っている次第です。

市参事（学校再編担当）

今後の学校再編のスケジュールについてご報告させていただきます。今年8月の保

護者説明会から始まり、9月にはアンケート、11月にタウンミーティングが行われます。教育長の報告にあったように説明会も宇仁の1校区を残すのみになっています。そして、12月末をめどに再編の方針を固めていくという流れで現在進めております。方針については12月19日に臨時校長会を行い、12月21日の定例教育委員会において教育委員会でご審議いただいた上で、教育委員会として再編方針を決めていきたいと思っています。その方針について1月の広報で市民の皆様にお伝えし、年明け1月23日から中学校区ごとに説明会を開催する予定です。

学校教育課長

小・中・特別支援学校における学校教育活動についてご報告いたします。

まず、前定例教育委員会の翌日から小学校の修学旅行が行われました。インフルエンザが大変心配されましたが、全ての小学校において実施できました。天候にも恵まれ予定どおりの活動が実施できたこと、特に京都での活動は平日にもかかわらずものすごい人出で、子どもたちも驚いていたと聞いております。

それから、11月2日から4日の間、各中学校において音楽祭が行われました。残念ながら1校において、インフルエンザの学級閉鎖で保護者の前での披露ができなかった学級がありましたが、別の日に実施したと聞いております。

もう1点は先日の新聞にも掲載されましたが、11月18日に県の日高町神鍋高原で行われた兵庫県中学校駅伝において、北条中学校女子チームが3位に入賞しました。12月3日に和歌山で行われる近畿中学校駅伝に出ることになり、昨年度も奈良で行われた近畿大会に出場していますので、北条中学校女子チームは2年連続で出場することになりました。実は「今回の大会ではあわよくば優勝を」と期待していたところもあったようで残念な面もありましたが、2年連続の入賞というのは大変喜ばしいことです。頑張ってほしいと期待しております。

生涯学習課長

最初に、生涯学習事業補助金についてご報告します。第8回定例教育委員会において説明させていただいた生涯学習事業補助金現在の交付決定等状況を報告させていただきます。第1回募集時には、三つの団体から申請があり全て交付決定いたしました。現在、12月8日締切りとして現在追加募集をしており、申請1団体、問い合わせが1団体からあったところです。

続いて、公民館講座ドラフト会議について報告させていただきます。公民館ドラフト会議は、市民の皆さんから公民館の講座のアイデアを募集するもので、今年度から始めた取組になります。現在3人の方から七講座のアイデアをいただいております。職員では思いつかないような内容もあり、市民の皆さんのニーズを知る機会ともなりよかったと思っております。

12月27日が締切りとなりますが、その後公民館ドラフト会議を開催し、各公民館が実施したい講座を選択、それを来年度に実施できるよう進めていきます。初めての試みで実際に応募があるかどうか不安でしたが、こちらでは知り得なかった地域の人材の発掘の場にもなると思っております。そういった方々をつながりを持って公民館を活性化させていきたいと今思っております。

追加で、こども情報誌についてご報告いたします。これはいつも長期休業に入る前に小学校においてお配りいただいているもので、今年度の冬季休業前後に行われる催しを一つにまとめたものです。またお時間のあるときにご覧いただけたらと思います。

教育委員からの意見と生涯学習課長の回答

・ここで言うべきか分からないのですが、各公民館まつりに参加させていただきました。それぞれが工夫を凝らして発表や展示をされていまして、善防公民館のときは小・中・特別支援学校から、ほかの公民館でも泉などは中学校の体育館で開催したということもあり、たくさんの生徒たちがボランティアとして参加してくださっていました。今まではどちらかというと、ふさわしいかどうか分かりませんが、高齢者中心の活動でしたが、それが子どもたちまで広がっているという印象を受けて、とてもよかったと思います。ありがとうございました。

・私も報告事項から外れるかもしれませんが、善防公民館まつりに参加させていただいてどうもありがとうございました。非常に去年以上に盛り上がり、中学生がボランティアとして本当に活躍していて、とてもよかったと思いました。

これは去年も言わせていただいたことだと思うのですが、例えばトップバッターでハワイアンズの演奏ということで4、5曲を発表していたので、もしよかったら1曲でもいいので、小・中学生と一緒にコラボしてみたら、親御さんも見に来られてもっと観客が増え、公民館まつりはもっと広まって大盛況になるのではないかと思います。無理にとは言いませんが、一度どこかの発表で小学生あるいは中学生とコラボしてみたら面白くなるのではないかとというのが、私の一つの案です。私は善防公民館しか行っていないので、ほかの公民館まつりは分からないのですが、去年以上に盛り上がっていてよかったと思いました。いろいろとありがとうございました。

(回答) 先ほど教育委員さんが言われた案については、館のほうに伝えさせていただきます。コラボは学校との調整等もありますので、できるところでということでは上げていただきたいと思います。

実は、その前日の映画上映会において善防中学校野球部のご協力があり、公民館職員3人と野球部の生徒さん、公民館登録グループの三者でマツケンサンバをやっ

て盛り上げようということになりました。まず館の職員が登録グループさんと一緒に何かやるということ自体がなかったので、そういうのは今までなかった取組です。館長を初め、みんなで考えて「映画の内容ももちろんしっかり見ていただきたいけれども、そこに来てくださった方に楽しんでいただきたいということで、急遽企画しました。やってもいいですか。」とこちらに連絡がありました。「ぜひやってください」と言うと、「善防中の先生がとても協力的で『やろう、やろう』と言ってくださったのです。」と館長も喜んでおられました。私は残念ながら行けなかったのですが、実際とても盛り上がったと報告いただいています。

ということで、教育委員さんが今言っていたことも、そんなふうになんかずつできるところで一緒に何かをするというふうにしております。また、善防まつりでは発表会2日目に一つの団体の方が急遽出演キャンセルとなってしまう、穴が空くのでどうしようということになりました。そのときも当日ボランティアで来ていた善防中学校の方々が「自分たちで何かやります」と引き受けてくださり、急遽演目に出てくださったと聞いています。

それには、トライやる・ウィークのおかげで学校と館の間にしっかりとした関係ができていて、それで実現することができたと報告いただいています。やはり日頃から中学校や小学校、また特別支援学校の先生方のご協力、またそういった方々に支えられて公民館まつりができているのだと実感した次第です。またほかの館でもそういった協力体制を取っていけるよう進めていきたいと思っています。ご意見どうもありがとうございました。

- ・生涯学習で公民館まつりを拝見させていただきまして、ありがとうございました。私も何年前に参加したのですが、ここ最近は参加できていませんでした。皆さんが楽しそうに生き生きと活動されていて、その笑顔に本当にほっこりいたしました。行かせてもらったとき、久しぶりの方に何名かお会いでき、「あ、来てよかったな」と思いました。老後の生きがいや楽しみ、生涯を通して学ぶことの大切さをひしひしと感じました。コロナで世界が苦しんだり、今も戦争が起こっていたりというニュースを目の当たりにしたとき、皆さんの穏やかな笑顔を見て日本人であることの幸せを感じます。いつまでも穏やかな時間が流れていくことを切に願います。生涯学習活動がますます盛んになることを本当に願います。ありがとうございました。

総合教育センター所長

「令和4年度加西市内の小中学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について」ご報告します。令和4年度全国「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」について、文部科学省において集計された結果が10月に発表されました。

たので、全国、県の状況と合わせて令和4年度の加西市の状況を報告いたします。

まず、暴力行為については、けがや病院の診断書、警察への被害届の有無にかかわらず、少し突き飛ばしたようなものも含め全てを対象として集計しております。発生件数としては、中学校では県平均を大きく上回っております。内容は昨年度同様、発達特性のある複数の同一児童生徒が思いどおりにいかなかった場面において、言葉で表現できず暴力に至ったケースが多くカウントされております。対教師暴力に関しましても、特性のある子どものパニックを制止しようとした際に教師に手が当たるような状況もカウントしているもので、このような数字となっております。加西市では小さな事案から積極的に上げることで結果、大きな数字となりましたが、引き続き支援が必要な児童生徒への教職員のスキル向上、発達アドバイザーやスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携した校内支援体制のさらなる充実を図っていきます。

いじめについては、「児童生徒が心身の苦痛を感じているものは全ていじめ」という定義の下、暴力行為と同様に積極的な認知を行っております。加西市においてはいじめの認知件数が全国、県の平均を下回っていますが、前年度比でプラスとなり、全国、県、市ともにこれまでで最も多い認知件数となりました。いじめは基本的にコミュニケーションから発生します。近年はコロナ禍で活動が制限されトラブルの機会が少ない状況にあり、一方でコミュニケーション力が身につけにくい状況でもありました。コロナ禍が明けるに従ってトラブルの機会が多くなり、件数が増加しております。SNSを含むコミュニケーション力向上や集団生活のスキルを身につけていくことが必要となっております。

また、ネットでの誹謗中傷やいじめについては学校では把握が非常に難しいので、保護者、家庭に向けても子どもの様子を気にかけて、ネット利用について教育していきえるよう、働きかけていく必要があります。昨年度も重大事態に至ったという事案はありませんでしたが、小さいいじめが重大事態につながる可能性もあります。いじめを許さない集団の土壌が、早期発見、早期対応を可能とすることを頭に置いて、いじめ見逃しゼロを目指しスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携した体制づくりも進めています。

最後に、不登校ですが、年間30日以上欠席した児童生徒のうち何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因や背景により、登校したくともできない、あるいは登校したくない状況として調査を行っております。なお、ふれあいホーム等の学校外へ通っている生徒につきましては、この報告では不登校の人数に入ります。加西市においても不登校は大きな課題であり、特に近年は小学校での増加傾向が心配されております。全国的な問題でもある不登校に関しては、学校で起こっている問題としてだけでなく、複雑で多様化した家庭支援や社会全体の問題として総合的に捉えなければならず、解決は非常に難しい状況にあります。

学校としましては未然防止、早期対応の観点から、引き続き居心地のよい学校、学級づくりに努めていくとともに児童生徒の課題や背景を受け止め、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、発達アドバイザー、ふれあいホームなどと連携した校内支援体制の充実や個々の状況に応じた支援が必要だと考えております。また、学校復帰だけを目的とせず、中学校卒業後に引き籠もらないようにスクールソーシャルワーカー、地域福祉課などの関係機関と連携を継続しながら、将来の社会的自立に向け切れ目のない支援体制の推進を行っていきます。

最後に、暴力行為、いじめ、不登校の全てにおいて、背後にいじめがないか危機感を持って検証していくとともに、社会全体でコミュニケーションの方法が変化している今、コミュニケーション能力の向上やよりよい人間関係の構築が求められています。様々な課題を抱える不安定な児童生徒や経済的福祉的困難な家庭が多く、また今後もコロナ禍がどのように影響してくるかは分かりません。学校では支援や対応が難しい状況が増えており、子どもや保護者を孤立させないために、地域や福祉関係の機関との連携がより重要になっていると考えております。

教育委員の質問と総合教育センター所長の回答

- ・今年度9月から校内フリースクールがスタートしていますから、例えば令和5年度不登校の人数のデータというのは、当然変わってきていますか。また、フリースクールは出席扱いになるのですか。

(回答) 出席扱いにはなりません。ただし、出席と出席扱いは違います。それを入れていくと実態が全く分からなくなるので、例えばこの文科省の報告では欠席で上げるようにという約束になっています。

- ・ここでフリースクールを出席扱いにした場合、人数など変わってくるから、来年度のフリースクールの状況も変わってくるのかなと少し心配していたのです。でも、あくまでもこの定義に沿った人数で、来年度も同じように報告されるのですね。

(回答) 校内フリースクール、ふれあいホームや民間のフリースクールなど、いろいろな手だてを打っているいろいろな支援をすると、行けるところは増えるのですが、報告の不登校の数は変化しないです。

- ・いじめの態様別構成比の中で気になったのは、「パソコンや携帯電話で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」という割合が少し高いと思うことです。メールなど顔が見えないところですから、言葉遣いが肯定的なのか否定的に言っているのか分からないところがあります。それで、子どもたち同士が微妙に食い違ったりして、「昨日のあれのこと」というふうにけんかになってしまうこともあると思います。この

辺りはどのように対策されるつもりですか。ありましたらお願いします。

(回答) まず、我々もこの数字を見たときに気になったのは確かです。ただ、あくまでもこの数値は分類上のもので、同じ状況であってもパソコンや携帯の欄に入れられるときもあれば、一番上の「冷やかしやからかい」に入れることもあり、正直なかなか実態というのは数字から図れないところが多々あります。それから、先ほど教育長も言われましたが、比較的に加西市は積極的に報告を上げるようにしていますので、他市町の基準からするとかなり厳しい数字が上がっているというのも事実だと思います。ですから、この数字だけで図るのは少し難しい面があります。

そして、パソコンや携帯でのいじめに関していえば、本当にある程度事柄が進んで学校で子どもたちに変化が現れるとか、大分子どもたちにとってしんどい状況になってこないとなかなか見つからないというのが事実です。そうした点からたくさんの調査をしたり、未然防止の働きかけとして情報モラルの授業や家庭への啓発や案内をいつも続けるようにしています。それに伴いもちろんコロナなどの体調不良も含めまして、虐待やヤングケアラー等のいろいろな問題が出ていますので、学校では子どもの観察をしっかりとるように、それも担任だけではなく複数体制で情報を共有しながら状況観察を強化するような取組を行っているところです。ただ、このことに関してはなかなか表に出てくるのが難しい状況というのがあります。

- ・分かりました。大変難しいことではあるのですが、小学校でつける生活ノートで子どもたちが少し気になる言葉を出しているなど、アンテナを高くしてその辺りもキャッチしていただければと思います。これはもう先生方がしてくださっていることだとは思いますが、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

- ・例えば不登校の件では、加西市はパーセンテージ的に少し上がってきているかなという感じがいたします。中学校においても令和4年度8.7%で、これも全体の数であり各学校によってもパーセンテージは様々ですので、もしかするとこれよりもぐっと上がっている学校もあるかなと思ひます。

ですが、今年からはフリースクールも始まりました。そして、ふれあいホームもあります。それらは出席にはカウントされないのですが、少しでも人と交わることの大切さを知ってもらったり、誰かとつながることで「ああ、生きていることは楽しいな」と思ってもらえたり、そういうふうにして少しでも前へ一歩前進してもらえればと思ひます。もちろんこのカウントにはこだわらなければいけません、それよりも子どもの成長を短期ではなく長期の長い目で見あげて、子どもたちが一歩ずつでも社会に出ていけるように後押ししていただければと思ひます。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・令和5年第12回定例教育委員会 12月21日(木) 14:00～1階多目的ホール
- ・令和6年第1回定例教育委員会 1月24日(水) 14:00～1階多目的ホール

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和5年11月22日

出席者
(出席者署名)